

1. 選手登録は1チーム11名以上、25名以内とし、ベンチ入り20名とする。
2. 出場選手は連盟に登録され、指定の傷害保険加入者に限る。
3. 登録選手及び登録されたチーム責任者・監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることができる。但し、各種登録証及び審査証を携帯しなければならない。
4. 組み合わせの若番号が1塁側ベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。
5. マネージャーは選手と同じ帽子を着用すること、監督背番号60・コーチ背番号50は選手と同じユニフォームを着用すること。
6. 試合開始予定時間の1時間前には球場に到着し、到着後直ちにメンバー表5部を提出して所定の審査を受けられるよう、準備し待機すること。
7. メンバー表交換時に両キャプテンにより先攻、後攻をジャンケンで決める。
8. 試合開始時間までにチームが到着していない時、審判は没収試合を宣言することができる。
9. 試合は1時間40分6回とし、1時間40分を越えて新しいイニングに入らない。  
また、時間内で同点の場合はタイブレーク方式（1アウト満塁から）で勝敗を決する。  
(時間切れ同点の場合も、タイブレークで勝敗を決する。)
10. 4回以降、7点差の場合はコールドゲームとする。
11. 降雨、日没等その他の理由により試合続行不可能となった場合、4回以降であればコールドゲームが成立、3回以内であればサスペンデットとし、次の試合日に再開する。  
但し、4回以降同点の場合、最終回終了時に出場メンバー全員で抽選を行う。
12. 試合での登板は以下のとおり制限する。  
1日最大70球とし、連続する2日間で105球以内とする。  
連続する2日間で105球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。  
また、3連投（連続する3日間）する場合は、1日の投球数を35球以内とし4連投（連続する4日間）は禁止する。  
尚、詳細は「中学生投手の投球制限ガイドライン（新）2022版」を適用する。  
(指導者・審判員ハンドブック)大会運用細則・資格審査方法と手順 202512を参照
13. 攻守で監督及びコーチの指示・伝達は1試合で各2回の計4回を限度とする。  
延長に入った場合は、1回の指示・伝達を認める。  
(選手のケガや、選手の交代などは回数をカウントしない。)  
守備側の投手に対する指示・伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。  
内野手（捕手を含む）が、2人以上投手のところに行った時も1回に数える。  
また、指示伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
14. 監督又はコーチが選手にアドバイスする時は、マウンド付近で行うこと。
15. チームの抗議権は監督のみにあり、監督不在の場合はコーチが代行する。
16. 申告敬遠を適用する。(監督は必ず球審に申告敬遠を宣告すること。)
17. ヘルメットを1チーム7個同色のものを備えること。
18. バット及びグローブ、スパイク等は連盟指定業者のものに限る。
19. 捕手は必ずユニフォームの下に、規定防具を試合及び練習を問わず着用すること。
20. グラウンドの都合で、大会トーナメント規定が別に制定されると、それに従うこと。
21. 大会中の負傷については応急処置を行うが、それ以外の責任はもたない。
22. その他本規定に定めのないものは、日本少年野球連盟の定めるところによる。
23. 光化学スモッグ発生（予報、注意報、警報）の場合、試合及び選手に対する処置は別に定め、運営委員の指示に従う。